

資料1 富戸地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3・4グループ】

第4回地区協議会資料
(平成29年3月1日)

分類	H27. 5. 12地区協議会（第1回）	H27. 11. 20地区協議会（第2回）	H28. 6. 17地区協議会（第3回）	考えられる対応策	
堤防整備 (津波)		[現況の高さ] ・堤防はらない、避難道路の整備 ・新しい堤防は不要である、富戸地区のほとんどが高いガケでできている [L1津波高さ] ・横磯にレベル1に耐える堤防を作ってほしい	・防潮堤のかさ上げはしないで、避難路整備やソフト対策の充実などで対応する	・レベル1津波による浸水被害を防ぐための護岸整備（かさ上げ）は当面実施しないこととします。	
崖崩れ (避難中の崖崩れ)	・山のカケくずれ ・見渡してガケくずれ、倒木等が発生しているか確認する ・富戸漁港は急傾斜の崖に囲まれているので崖くずれが心配 ・市場から高台に上がる 危険な場所が3ヶ所 ・がけがくずれる ・高台に行くまでに土砂崩れ箇所が2箇所あるので市場の近くから上がる	・ガケ崩れ ・震度7では山が崩れるので山が先 ・津波だけ考えると県道へ逃げればよいが、がけ崩れが危険である ・ガケの整備	・土砂崩れの心配 ・崩れる心配あり	・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備	
避難路	<ul style="list-style-type: none"> 逃げ道がせまい 避難路がふさがれるような岩が落ちてこないか？ また、落ちていないか？ ガケがくずれる 車が不可 避難できないことがある 高いところに逃げようと思うが、がけが崩れているとどこに逃げたらよいか心配(港の周りがほとんどがけ) 避難ルートの階段が崩れて利用できない 階段が崩れてこないか？ 階段が崩れて使えなくなることがないか？ 避難路が崩れていないか 港内道路際のガケの崩壊が心配 土砂くずれによる通行可か不可か 危ない地域を確認 道路などライフラインの安全確保(避難路含む)は大丈夫か？ 漁協入口の石積みがくずれそう 富戸公園に避難 土砂崩れがなさそうな順路をさがす 港～宇根道までの道 広域避難場所の富戸公園までの避難路が大丈夫か？ 富戸港の階段が構造上大丈夫か？ 自宅へもどる道路はどうなっているか？心配です。 どの道が安全か？ 横磯の方は危ないと思うので高台に逃げるが、家とは逆方向になるので後々のことが心配となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 西町(10戸) 避難用階段 3分で逃げれる範囲(防災訓練) 県道がH≒14~15mであるので西町の海岸の人は県道へ逃げる 避難路の安全対策 堤防よりも安全な避難路が必要である 	<p>中期</p> <ul style="list-style-type: none"> 富戸漁港から3か所の階段 避難用階段の整備(西町) 避難路の安全対策 <p>長期</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路防災事業での対応を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 階段の設置 草刈りが必要(急傾斜) 石垣せまい 階段をつける H=5~6m 手すり必要 橋が危険では？ 県道へ上がる道がない 県道へ出る道がほしい 細い ブロック積み心配 石積みを安定してほしい 狭い 切り通し 石積み崩れる心配 石積み危険大 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。 H28.3に配布した、津波ハザードマップをつかい、避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。 広い道にできるだけ早くでる。(安全を確保した上で) 大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。 海岸線の県道は危険なので避難路としない。 県道は平成28年度に防災点検済み。緊急性は低いことを確認。 <p>→ 避難路の整備(手すり設置)(S-1-1)</p> <p>→ 避難路の整備(階段設置)(S-1-2)</p> <p>→ 避難路の整備(石積みの補強・階段設置)(S-1-3)</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 西町付近の県道を今よりも盛土した構造にしてもらいたい +3m 		・現状でレベル2津波より高い位置にあります。
			<ul style="list-style-type: none"> シェルターを設置する(西町に) 		・ソフト対策により避難困難地域がほぼ解消されるため、シェルターの必要性は低いと思われます。
			<ul style="list-style-type: none"> 避難する方向がわかるようにする 避難路の表示 		・津波避難方向や避難場所の表示について、今後、検討していきます。 → 津波避難方向の路面表示等の充実(S-2)
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 避難する方向がわからない 港から高台に避難する道を判断するに考えてしまう 富戸港から港内に3ヶ所ある階段を上がる 階段が狭い自宅以外のところにいるときの避難方法の不安 外出の際の避難場所 津波で逃げた後、孤立する 	<ul style="list-style-type: none"> 避難路マップ 安全度のレベルで色分け等 一時的な避難場所の開設→広域避難場所 避難場所 富戸公園に避難した時の緊急用の電話もわかるように 災害発生を早めに 避難場所での対応 	<p>中期</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明灯の設置(ソーラー) 各避難所へ行くための誘導灯 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会での設置 → 街灯の新設及びLED化に対する補助(S-3) 	
			<p>短期</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波ハザードマップの配布 自主防災会ごとの津波避難行動計画作成 避難路マップの作成 三島神社に集まる(お年寄りなど第一にここへ) 払町会館を避難場所に 消防会館(第1段階集まる) 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港より南側の集落は、富戸公園、城ヶ崎高校、対島中。駅側の集落は富戸小が広域避難場所。 できるだけ高台(海から離れる)まで逃げる。(絶対はない) H28.3に配布した、津波ハザードマップをつかい、避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。 	

分類	H27. 5. 12地区協議会（第1回）	H27. 11. 20地区協議会（第2回）	H28. 6. 17地区協議会（第3回）	考えられる対応策
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> どこまで逃げればいいのか？ 避難場所まで時間がかかる。 高齢者が多いので避難場所(高台)まで素早く行動できるか？ 富戸公園へ避難 市場より高台へ避難し、避難場所の富戸公園に行く ①富戸方には行かない ②富戸公園に行く 			<ul style="list-style-type: none"> 津波避難方向や避難場所の表示について、今後、検討していきます。 → <u>津波避難方向の路面表示等の充実（S-2）</u>
来訪者・観光客の避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者の避難誘導が必要 誘導責任者を決める 営業中、来客者の避難誘導 観光客の誘導 避難ルート表示がほしい 避難所への行き方(どこに避難所があるのか) 客に外に出るよう声をかける 港内の道路幅が狭いため観光客等多数が滞在しているときは避難に時間がかかる ダイビングをしていた場合、気がつくのか つり人がいたら 夏季の海水浴客の危険(ボラ納屋、伊豆海洋公園) ダイバー、観光客に対しての誘導 釣り人やダイビングをしている人は大丈夫か？ スキューバダイビング、ボラ納屋の利用客が危険 塾経営で子供を預かっているので、それが一番です。 海拔表示を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客等にわかるような表示 	短期 <ul style="list-style-type: none"> 避難路の表示 海拔表示の増設 海水浴客の対応 高齢者を避難場所にどのように誘導するか ダイバーへはダイビング会社や漁協に津波がきたと教える手法を考える 旗など 釣り人が心配 釣り人が大勢いる 誘導標ほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 津波警報等が発令されたときは、同報無線により即座に避難に関する情報を流します。 保育園、幼稚園、コミセンが避難所 津波避難方向や避難場所の表示について、今後、検討していきます。 → <u>津波避難方向の路面表示等の充実（S-2）</u>
災害弱者(要介護者の対応)	<ul style="list-style-type: none"> まわりの人が面倒みれるか 弱者への対応 富戸公園方向の高台に避難するにあたり、周囲の人に高齢者等を周知する方法が心配 早い避難のため早急な対応の中でのことであり、危険であり、心配である。 足の悪い人は大丈夫か？ 逃げ道が階段なので足の悪い人は、逃げるのが大変である。 		短期 <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者避難支援計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者については、あらかじめ避難行動要支援者避難支援計画(個別計画)を作成しておく必要があります。
家族が心配(安否確認)	<ul style="list-style-type: none"> 高い所へただ逃げる家族のことは考えられない？ 階段使用の場合、お年よりは大丈夫か？ 家族のことが心配であり、自分一人で逃げるが途方にくれる。 家族が心配 家族との連絡 			<ul style="list-style-type: none"> 家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。
車で逃げない	<ul style="list-style-type: none"> 車は使用できないと思うので高いところへ逃げる(歩いて) 道が車でふさがれる 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急車両がいつでも通れる道路 	<ul style="list-style-type: none"> 車はいけない 人のみ 	<ul style="list-style-type: none"> 乗り捨てた車両により、消防車等の緊急車両が通れなくなります。原則、徒歩で避難してください。
建物被害	<ul style="list-style-type: none"> 火災 ガラス等の落下物 家が崩れる 通信が不可 		<ul style="list-style-type: none"> 家屋が心配 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい(TOUKAI-0による支援)。
不安	<ul style="list-style-type: none"> 足がすくんでしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の場合の照明 		<ul style="list-style-type: none"> 地震体験車などによる経験をする機会があれば、ぜひ経験してみてください。